第 33 回（令和 4 年度）手話通訳技能認定試験（手話通訳士試験）「聞取り通訳試験」問題

第１問

【通訳場面等の説明】

小学校の保護者会に、地元で食品ロス問題に取り組んでいるＮＰＯ法人の代表が活動の紹介に来ている場面です。ろうの保護者も参加しています。

【問題文】

「食品ロス」とは、本来なら食べられるのに廃棄される食品のことです。日本では、令和２年度には年間 522 万トンの食品ロスがあったと推計されており、10 トンの大型トラック 1,430 台分の食品が、毎日、廃棄されていたことになります。

実は、この数字は、前年度と比べて 48 万トン減少しているのです。それでも、国民一人当たりに換算すると年間でおよそ 41 キロの食べものが捨てられている計算になり、実にもったいないですよね。

現在、私たちのＮＰＯ法人では、「フードドライブ」といって、家庭で余った食品を子ども食堂や地域の福祉施設に再分配する取り組みを展開しています。

いただきものや買いすぎたものなど家庭で眠っている食べ物のうち、生鮮食品以外のもの、缶詰やインスタント食品、調味料、乾物などが対象になります。未開封のもので賞味期限が１ヶ月以上あるものに限られます。冷凍食品は対象外です。詳細はお手元の資料をご参照ください。

第２問

【通訳場面等の説明】

ある特例子会社の朝の会での通訳場面です。この会社では、社員が毎朝ひとりずつ、自分の体験をリレーで話すことになっています。

【問題文】

花粉症はもう国民病とも言える病気の一つですね。私は「花粉症」という名前がまだ一般的ではなかった頃から 40 年以上の長い付き合いになります。

10 代の私は進学のために地方から東京に出てきました。環境変化のためか、急に鼻水と涙が止まらなくなり、発熱もしてないのに頭痛がひどくて勉強に集中できなくなりました。その症状が梅雨まで続き困った記憶があります。

当時、病院で受診したときに「アレルギー」と言われましたが、薬は特に処方されなかったと思います。そして、何年か後になって初めて検査を受け「季節性アレルギー性鼻炎」いわゆる「花粉症」と診断されました。

検査は、腕にヒノキ、スギ、ブタ草など 10 種類くらいの液体を一滴ずつ垂らし、針で小さく皮膚を傷つけて反応を調べるというものでした。赤くなった箇所があればアレルゲンが特定できるので、何に注意したらよいかが分かるわけです。

私は 30 代が症状のピークでしたが、最近では点鼻薬、点眼薬、飲み薬などでだいぶ抑えられるようになり、助かっています。コロナ禍の現在は、外でクシャミをするだけでも周りの視線をきつく感じるので、薬は手放せません。